

B 17 織物保存ケースの為の合成樹脂板と織物の疲労性  
文化女大家政 ○引地芳江 成瀬信子

目的 博物館等での展示織物は照明及び温湿度などの館内環境条件により自然に劣化を生じている。織物の保存及び展示の際の劣化を防ぐ研究は多方面からなされているが、織物保存ケースの為の合成樹脂板と織物との関連した疲労に関する研究は少ない。そこで近年、織物保存の為に開発された合成樹脂板(紫外線カットアクリル板)で織物をバック保存することが行なわれているが、この場合の織物の劣化について検討した。

方法 ケースの樹脂板は紫外線カットアクリル・アクリル・ポリカーボネート・塩化ビニルの4種で、布の固定の為にシリコン樹脂を重ねた場合についても検討した。試験布は絹織物と毛織物で、毛織物については染色した色物も用いた。処理は展示織物の疲労の原因が主に光であると考え、次の4条件で行った。(1)日光暴露100hr・200hr (2)キセノンランプ照射50hr・100hr (3)紫外線カット蛍光ランプ照射100hr・200hr・500hr (4)蛍光ランプ照射100hr・200hr・500hr 処理後は光学的、力学的測定を行い、絹織物についてはアミノ酸分解の程度も調べた。

結果 樹脂板の紫外線部分の光透過率は塩化ビニル板は大きい、他の樹脂板は小さい。織物の日光暴露による黄変および強伸度低下は、全く樹脂板をおおわない時は最も大きく、次いで塩化ビニル板をおおった場合である。他の樹脂板間の差はこれらよりも小さい。しかし、紫外線カットアクリル板をおおった時のノイバウエル・ロード反応の結果に対しては、普通のアクリル板による場合よりもアミノ酸分解が小さいことが示された。